



特別展

鯨の世界

— その進化と現在 —

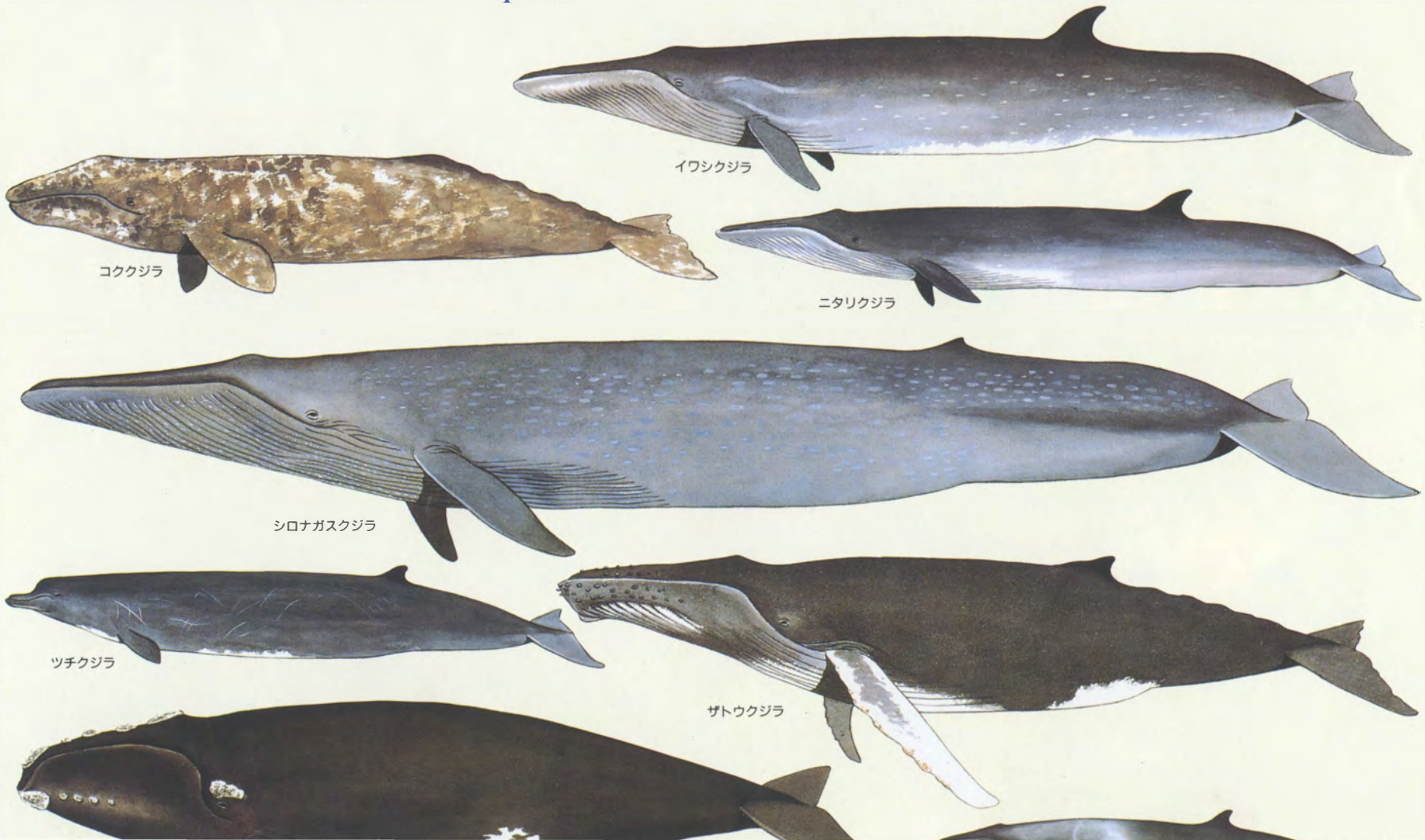
7月13日(火)～9月5日(日)

1993

山形県立博物館

日本近海にいる鯨類

Cetaceans around Japan



セミクジラ

ミンククジラ



ナガスクジラ



マッコウクジラ



シャチ



イシイルカ



アカボウクジラ



コビレゴンドウ



オキゴンドウ



カズゴンドウ



オガワコマッコウ



コマッコウ



カマイルカ



ユメゴンドウ



サラワイルカ



マイルカ



イチョウハクジラ



シワハイルカ



ハブスオオギハクジラ



ハナゴンドウ



ネズミイルカ



ハシナガイルカ



スナメリ



バンドウイルカ



スジイルカ



マダライルカ



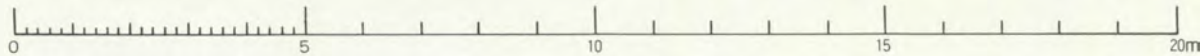
オオギハクジラ



セミイルカ



コブハクジラ



開催にあたって

海の人気者イルカ、そして地球上最大の動物シロナガスクジラ。こうした「イルカ」と「クジラ」を別の生きものと思っている人が多くいますが、分類学上は大きく「鯨目」にまとめられる同じなかまなのです。鯨目は、歯をもつ「歯鯨亜目」（主に小型のイルカ）と、歯を失ってヒゲ板を発達させた「ヒゲ鯨亜目」（主に大型のクジラ）に分けられています。

こうした歯鯨やヒゲ鯨は、過去に共通の祖先から進化して現在にいたったと考えられています。その祖先は陸上にいた哺乳類で、中生代の恐竜が減んだ後、海へ進出して、海の生活に適応するようにからだのしくみを変えながら、多様な進化をとげてきました。現在みられる鯨類の種類は約80種です。

鯨類と日本人のかかわりは、約5000年前の縄文時代前期にまでさかのぼり、世界でも最も古いと考えられています。近年、商業捕鯨が禁止され、海洋環境とともに、鯨類の保護の議論が高まってきましたが、その生態についてはまだ不明なところが多くあるといわれます。鯨類をよく理解するためには、現在の鯨を知るとともに、過去に鯨がたどってきた進化の道筋を知ること大切です。

本展は、こうした鯨類の現在と過去のすがた、そして人のかかわりについて考えようとするものです。また東北の鯨化石や、山形の鯨化石についても紹介します。

主な展示資料

I いまの鯨 一海へ適応した鯨のからだ一

〔ミンククジラ全身骨格、ツチクジラ全身骨格〕

○歯鯨のなかま〔コビレゴンドウ頭骨、バンドウイルカ頭骨、ハナゴンドウ頭骨、セミイルカ頭骨、スジイルカ頭骨、イシイルカ頭骨、ネズミイルカ頭骨、カマイルカ頭骨、スジイルカ胎児、スジイルカ椎骨、など。〕

○ヒゲ鯨のなかま〔ナガスクジラヒゲ板・耳骨、ニタリクジラヒゲ板、ミンククジラ頭骨・ヒゲ板、セミクジラヒゲ板、など。〕

○謎のメソプロドン〔メソプロドン全身骨格〕

II むかしの鯨 一鯨の進化をさぐる一

〔アゴロフィウス頭骨[®]、メタスクアロドン上顎骨[®]、アーギロケタス頭骨[®]、ケントリオドン頭骨[®]、ロフォケタス頭骨[®]、マウイケタス頭骨[®]、アカボウクジラ科頭骨、マッコウクジラ科産状[®]、など。[®]：レプリカ〕

○東北の鯨化石〔イワキクジラ頭骨[®]、イワキクジラ産状[®]、イワキクジラ肋骨、オオクマイルカ上腕骨、フタバクジラ産状[®]、フタバクジラ上腕骨・肋骨、など。[®]：レプリカ〕

○山形の鯨化石〔戸沢村産ヒゲ鯨類下顎骨、大江町産ヒゲ鯨類下顎骨・椎骨、真室川町産ヒゲ鯨類椎骨、大蔵村産ヒゲ鯨類尾椎、中山町産ヒゲ鯨類下顎骨、など。〕

III 人と鯨のかかわり 一鯨とともに生きる一

〔マッコウクジラの鯨歯工芸品、鯨木彫工芸品、写真パネル、など。〕

主な展示協力機関・協力者

福島県立博物館、双葉町教育委員会、いわき市教育委員会、いわき市石炭・化石館、柏崎市立博物館、国立科学博物館、真室川町教育委員会、真室川町立歴史民俗資料館、マリニピア松島水族館、中山町教育委員会、中山町立歴史民俗資料館、(財)日本鯨類研究所、(財)日本鯨類研究所鮎川実験場、新潟県立小千谷西高校、新潟市水族館マリニピア日本海、牡鹿町立おしかホールランド、和光学園和光高校、堀川秀夫(新潟市)、木村宣紀(牡鹿町)、木村友一(牡鹿町)、大澤進(東京都)、など。

(敬称は略させていただきます。)

講演会

(本館講堂、聴講無料)

記念講演：7月17日(土) 13時半～15時

講師：長谷川善和教授(横浜国立大学)「鯨の進化と現在」

第2回講演：8月21日(土) 13時半～15時

講師：長澤一雄学芸員(本館)「山形へやってきた鯨—1993年の漂着2例—」